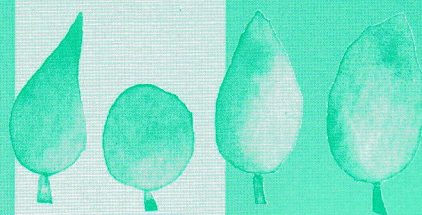


令和元・2年度

教育研究論文集

第 25 集



公益財団法人 新潟教育会

序にかえて

公益財団法人 新潟教育会 代表理事 濱 中 力 也

この度、教育研究論文第25集を発刊いたします。本教育論文集は、昭和47年4月に県当局より設立の認可を受けた「財団法人 新潟教育会」の下で刊行されてきた歴史的財産を土台にしています。第1集は昭和62年度に発刊されましたが、発刊の辞の中で当時の嘉村正規理事長は以下のように述べています。

学校に身を置くことで「教育をしている」と錯覚しているのでないか。子どもたちと接することをもって、「教員の任務を遂行している」と錯覚しているのでないか。教育というコトバが安易に用いられて、プロとしての教員の行う教育の照準がぼけてしまっているのではないか。

この言葉は、時代がどう変わろうとも私たちの在り方を示す灯火になっていると感じます。

本論文集には、小学校22編、中学校8編、特別支援学校2編の合計32編の論文提出がありました。選考にあたり、委員長をお引き受けくださいました新潟大学教職大学院研究科長の宮菌衛様、副委員長の同大学院准教授の大庭昌昭様をはじめ、第一次選考委員19名、第二次選考委員5名の皆様に心から御礼を申し上げます。

応募論文32編は全ての教科・領域である15分野に及びました。そして、一次・二次の選考審査を経て12編を入選論文として掲載することになりました。この入選数は近年にない数であり、応募いただいた皆様の実践研究に心から敬意を表するとともに、論文提出の背中を押してくださった各指導者の皆様にも御礼申し上げます。

今回の論文募集にあたり、前回同様「論文執筆説明会」を開催し、福島大学教授の佐藤佐敏様から「実践研究」と「実践報告」の違いについてご指導いただいたことも、執筆を目指すものにとって有意義でした。また、「教育研究論文」執筆要項によって、審査基準を明確にし、審査の透明性や公平性を高めたことも論文の質的向上につながったと受け止めています。

先日聴講した講義の中で印象的な言葉がありました。「大事なものは形ではない。グループやペア、自由交流がいつも誰にでもよいわけではない。ICTがあればいつでも誰でも学べるわけではない。その都度、子どもたちの持っている力を発揮するには何がよいのか。どうしたら子どもの声を聴けるのか判断するしかない。一度構成した環境を学びの展開に応じて再構成していくこと。」現在のコロナ禍やGIGAスクールの中で手段に走りそうになる私たちへのエールでした。

冒頭の嘉村正規先生は「教育研究論文集」発想の根底として、「この機会に、謙虚に日頃の実践とこれまでの研究を見直し、教育方法の開発に努め、教育創造に精進する。」と叱咤激励を送っています。本研究論文集を契機とし、更なる教育実践の広がりや深まりに期待しています。

2 令和元・2年度教育研究論文入選論文の概要

入 選 論 文

【学習指導（国語科）】

新潟市立大形小学校 教諭 岩崎 直哉

最後の一文の象徴を読む

— 読者論に立つ読みの授業の提案 —

小学校国語科の読みの方略に焦点化した実践研究論文である。「最後の一文」に着目した研究主題が明確であり、また先行研究をしっかりと踏まえている。本実践では視点や見えの異なる2種類の挿絵から、「最後の一文」の意味を考えさせるところに特徴がある。

【学習指導（理科）】

阿賀町立阿賀津川中学校 教諭 長谷川大輔

根拠をはっきりとさせて、事象に対する考えをもつ生徒の育成

— 知識を活用し、理科の見方・考え方を働かせて課題に取り組む実践より —

中学校3年理科の学習指導において、学習の見通しを持ち、また根拠を明確にして考えをもてるようにするための学習指導の工夫を提案している。課題に対する知識や見方・考え方を明確にして、その習得と活用が繰り返し継続的に経験できるように、個人課題とグループ課題を設定する指導方法の有効性を実践・検証している。

【学習指導（図画工作科）】

新潟市立南中野山小学校 教諭 渡邊ゆかり

子どもが自分の思いを豊かにふくらませて表現するための図画工作科の指導の工夫

— イメージや思いをふくらませる「わくわく活動」の組織を通して —

小学校低学年の図画工作科の実践研究である。子どもが生活経験や体験を結びつけて発想を生み出せる教材との出会いや、自分のイメージや思いを膨らませる「わくわく活動」を組織することで、主体的に表現する姿が見られるようになることを論じている。

【学習指導（美術科）】

長岡市立南中学校 教諭 岡本 真梨

造形的な見方・考え方を働かせ、表現力を高めるための指導の工夫

— ピクトグラム制作における対話的鑑賞活動を通して —

中学校美術科の授業において、制作活動に意欲的に取り組むことが難しい生徒の実態を踏まえて、長期的に授業改善を試みている。制作における工夫点を可視化しながら実感を伴った制作を行い、また複数の対話的鑑賞活動を段階的に組織することで、生徒は造形的な見方・考え方を働かせて、表現力を高めていくことを示している。

【学習指導（体育科）】

新潟市立大形小学校 教諭 三上 賢二

子どもが思考を焦点化し、動きを高める授業づくり

― 回転ボードを活用した鉄棒運動「後方支持回転」の実践を通して ―

小学校高学年の鉄棒運動「後方支持回転」の学習において、子どもの思考を焦点化（自身の課題や改善の方策などを自覚）しやすい回転ボードを活用した実践を行い、動きの高まり（技能の向上）につながることを明らかにした。同様の手立てで他校（他教諭の指導）での検証も含まれている。

【学習指導（体育科）】

新潟市立鏡淵小学校 教諭 宮本 裕介

小学校高学年ベースボール型ゲームにおける状況判断に関する一考察

― 守備時の状況判断に着目して ―

小学校高学年のベースボール型「ティーボール」の学習において、子どもの状況判断能力を高めるために、塁を段階的に増やすようにルールを変化させたり、動き方の基準を意識づけるよう学習課題を設定したりし、守備時の状況判断能力の向上に有効か検証した。中学校への継続性やボール運動の他の型への拡がりも見据えた実践である。

【学習指導（体育科）】

新発田市立東豊小学校 教諭 本間 裕輝

「ボールを持たないときの動き」の習得を促すために行う動きの視覚化がもたらす学習効果

― アルティメット（ゴール型ゲーム）の実践を通して ―

小学校中学年のゴール型ゲーム「アルティメット」の学習において、ボールを受ける動き（ボールを持たない時の動き）に着目し、実際の動きを視覚化し、その動きの共有化（ネーミング）をすることの効果を検証している。比較的平易な技能で動きをパターン化し、運動が苦手な児童への配慮も含んだ実践である。

【学習指導（体育科）】

新発田市立東豊小学校 教諭 姉崎 謙

教師と児童の問題意識の一致を目指したネット型ゲームの指導

― 学習問題の明確化と対話による課題解決を位置付けた3段階の学習過程を通して ―

小学校中学年のネット型ゲーム「キャッチバレー」の学習において、子どもの主体的な課題解決を通して運動有能感の向上を目指し、各単位時間に毎回教師と児童の問題意識の共有、問題意識の明確化、チームでの課題解決の3段階の学習活動を位置づけることの効果を検証している。

【学習指導（道徳科）】

胎内市立黒川小学校 教諭 加藤 聡史

テーマ発問によって促す児童の多面的・多角的思考

—「道徳的価値に関する一つの言葉」からつくる道徳科授業を通して—

道徳が「教科」となり、実践の充実が求められる中、小学校に於いて「多面的・多角的思考」の育成を目指した研究である。「道徳的価値に関する1つの言葉」を用いたテーマ発問を手掛かりにして、子どもの多面的・多角的思考を促す様子を論じたものである。

【学習指導（外国語科）】

新潟市立葛塚中学校 教諭 上村 慎吾

英語学習における「主体的に学習に取り組む態度」を育てる評価方法の在り方

—ポートフォリオ的プログレスカードでの生徒の振り返りと教師フィードバックの工夫—

中学校外国語（英語科）の学習において、「主体的に学習に取り組む態度」の育成とそのため具体的な評価方法を明らかにすることを目的としている。このために、ポートフォリオ的プログレスカードを活用した継続的な生徒の振り返りと教師のフィードバックの手立ての有効性を分析、検証したものである。

【特別活動】

新潟市立江南小学校 教諭 伊比浩太郎

児童の合意形成に向けた話し合い活動についての一考察

—話し合い活動における児童の「納得感」に着目した教員の役割—

特別活動における深い学びとして、多様な考えを認め合いながら、合意形成にかかわる資質・能力の育成に関心が向けられている。小学校の複数学年の学級活動の話し合いにおいて、子どもの合意形成を図るために「合意形成表」と「合意形成に向けた3機能」を用いることで、子どもの「納得感」の高まりを検証した実践研究である。

【生涯学習】

新潟県立少年自然の家 社会教育主事 川口 弘泰

新潟医療福祉大学 講師 佐藤 裕紀

地域に愛着と誇りをもち、主体的に課題解決に取り組む児童の育成

—子どもの主体性の度合いを測る「参加の梯子」の枠組みを用いて—

小学校における総合的な学習の時間の授業改善に向けて、ロジャー・ハートの「参加の梯子」を手掛かりにして、形骸化しがちな子どもの地域参加の在り方を改善しようと試みた共同研究論文である。子どもを地域の一員としてとらえ、大人と話し合い、地域への愛着を深め、生活を創造しようとする主体性育成の可能性について論じている。